



診療科トピックス ①

新任教授紹介

▶ 東海大学医学部附属病院 教授

鬼塚 真仁 [血液・腫瘍内科学] 駒場 大峰 [腎内分泌代謝内科学]
岡田 健一 [消化器外科学] 高橋 雅道 [脳神経外科学]
酒井 大輔 [整形外科] 小路 直 [腎泌尿器科学]
野村 弘行 [産婦人科学] 五島 史行 [耳鼻咽喉科・頭頸部外科学]
鈴木 崇弘 [眼科学] 網野 真理 [救命救急医学 (循環器診療)]

診療科トピックス ②

病院長就任インタビュー

南多摩二次医療圏を支える拠点病院として
八王子ならではの地域連携で
良質の医療を提供

▶ 東海大学医学部附属八王子病院 病院長 野川 茂

診療科トピックス ③

新任教授紹介

▶ 東海大学医学部附属八王子病院 教授

金子 順一 [消化器外科学]
森田 典成 [循環器内科学]
鍋島 一仁 [消化器外科学]



新任教授紹介

● 東海大学医学部附属病院 ●

ベテラン・若手医師がひとつになり 血液疾患における個別化医療に取り組む

血液・腫瘍内科学 教授 鬼塚 真仁



希少疾患と思われがちな血液がんは、実際には全悪性疾患の中でも頻度の高い疾患です。当科には様々な血液がん治療において日本のオピニオンリーダーといえる医師が数多く所属し、ベテラン・若手がひとつになって質の高い診療に取り組んでいます。

主に同種造血幹細胞移植、CAR-T療法を行うような特殊性の高い症例に集学的治療を行うことが可能です。今後も新規治療法の開発に向けた臨床試験や治験、血液疾患の治療における個別化医療に取り組むことをめざします。

地域で血液診療を行ってられる医療機関に対しては、実際に施設に赴き、先生やスタッフが何に困って

いるのか、どういうニーズがあるのかなどお話を伺いたいと考えています。

また当院は造血幹細胞移植推進地域拠点病院であり、各種セミナーの開催や人的交流の具体化が可能です。地域の先生方にストレスなく血液疾患の患者さんを受け入れてもらえるよう努めていきます。

当院では造血幹細胞移植医療について、移植コーディネーターや看護師、メディカルスタッフが移植チームを構成し、治療に携わっています。血液がんを治すだけでなく、その先のQOLの回復を実現するための医療を重視しているのも特徴のひとつです。

循環型地域医療体制のさらなる発展を 地域の先生方と一緒にめざしていく

腎内分泌代謝内科学 教授 駒場 大峰



当科は腎疾患、内分泌疾患、糖尿病の3つの領域において専門性の高い医療をめざしています。それぞれ関連性が高い疾患のため、1つの診療科の中で医師20名が相互に連携を取りながら診療できることが大きな強みです。

加えて、地域のクリニックの先生方と協力しながら、循環型連携による地域医療体制を構築しています。血液透析を選択した場合は当院で導入後、人工透析ができるクリニックに患者さんをご紹介しています。また腎疾患から末期腎不全に至った場合は、透析療法のみならず腎移植も重要な選択肢として腎代替療法を検討します。

病気がかなり進行したあと、腎代替療法を要する直前になって患者さんを紹介されるケースも多いのですが、最近では免疫抑制療法や慢性腎臓病の進行を抑える新たな薬剤によって、保存期の薬物療法も進化しています。早い段階でご紹介いただくことで、腎不全への進展を回避できる可能性があります。また、このように早期にご紹介いただくことにより、専門的治療により病状を安定させ、いち早くご紹介元の施設にお戻しすることができます。循環型の地域医療体制のさらなる発展を、地域の先生方と一緒にめざしていきたいと考えています。

2024年4月より新たに当院に就任いたしました教授(附属病院)から
新任のご挨拶をさせていただきます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

オールステージのがんに対して 難治でも“あきらめない治療”をめざす

消化器外科学 教授 岡田 健一



肝胆膵外科手術は腹部手術の中で最も難易度が高い領域のひとつです。日本肝胆膵外科学会が認定する高難度修練施設Aは、1年間に高難度肝胆膵外科手術を50例以上行う必要があります。当院も認定を受けています。

その中で当院の高度技能指導医は、消化器外科専門医・指導医の資格を持ち、高難度肝胆膵外科手術において多数の経験を有しているのが強みです。

肝胆膵領域の悪性腫瘍は、近年の薬物療法の進歩もあり、保険診療で使用できる薬も増えてきました。特に難治がんとされる膵がんに対しては、薬物・放射線治療を用いた集学的治療によって、外科治療の

メリットを最大に引き出すよう取り組んでいます。

当院ではロボット支援膵切除術から血管合併膵切除術まで、病態やニーズに応じた治療体制が整っています。オールステージのがんに対して、複数の治療効果の恩恵を受けられる“あきらめない治療”をめざしていきます。

今後も先進的かつ安全性の高いがん治療を展開し、あらゆる進行度の患者さんに治療を提供できるよう、難治がん治療のさらなる発展に努めます。加えて、紹介患者さんの治療に関するこまめな情報共有を含め、地域の先生方との緊密な連携を進めてまいります。

専門高度治療を行った後のかかわりなど お互いの得意分野を重視した連携を推進

脳神経外科学 教授 高橋 雅道



日本は未曾有の高齢化社会に突入し、脳血管障害や脳腫瘍など脳神経外科が担当する疾患の重要性はますます高まっています。当科では幅広い脳神経外科対象疾患に対して専門医が高度医療を提供しており、年間の手術件数は600件を超え、全国の大学病院の中でも有数の手術件数を有しています。特に頭部外傷やくも膜下出血などの救急疾患については、24時間365日対応できる体制を整えています。

地域の医療連携は患者さんご家族のQOL向上のためにきわめて重要であり、当科は積極的に医療連携を推進します。脳神経外科の疾患は速やかな専門治療を要することが多く、その場合には地域の医

療機関からの求めに応じ、可能な限り迅速に転院受け入れをめざします。

また、高血圧や糖尿病などの生活習慣病を有する患者さんや、リハビリや長期療養が必要な患者さんも多数おられるため、専門高度治療を行った後の地域医療機関との連携を重視しています。

たとえば当科での治療後、自宅から近医通院をご希望の患者さんについては、積極的に開業医の先生方に紹介するなど、良好な連携が大切になると考えています。明るく風通しの良い活発な医局をめざし、患者さんのために日々努力を続ける所存です。

新任教授紹介

● 東海大学医学部附属病院 ●

患者目線の“誠意と誇り”を持った診療 運動器の疾患に専門性の高さを発揮

整形外科学 教授 酒井 大輔



当科では骨や関節、椎間板や神経など、運動器の外傷や加齢に伴う問題を解決するスペシャリストを育成しています。運動器の問題は日々の生活に直結し、生活の質を変えてしまうために“第三の脳”とも言われ、その健康を維持することが重要です。

運動器の疾患は小児から高齢者まで多岐にわたり、若くして問題となりがちなスポーツに伴う障害や、交通事故、災害時など多くのバリエーションに対応できるスキルが欠かせません。その点、当科では各疾患に対して専門性の高い診療を提供しています。

近年、医学部の未来プロジェクトの一環で、スポーツ医学への積極的な取り組みも始めました。東海大

学にはオリンピック出場レベルの学生アスリートが多く在籍しており、健康面のケアや医学的研究を強化すべく取り組んでいます。将来的には本学がスポーツ医学の中心的存在となることをめざしています。

地域の患者さんには、大学病院ならではの最先端の予防や診断・治療に加え、気持ちに寄り添った医療を展開するため、科のモットーである“誠意と誇り”を持って診療にあたるよう心がけています。最新の低侵襲内視鏡治療、ロボット手術なども含め、患者さんにやさしい医療の提供に向けて努力いたします。

大学病院としての新しい医療を提供 患者さんへの最適な治療選択肢が可能に

腎泌尿器科学 教授 小路 直



当科では、前立腺がん、腎細胞がん、膀胱がん、腎盂尿管がん、副腎腫瘍などの幅広い疾患に対してロボット支援手術を実施してきました。また前立腺がんに対する先進医療として、「集束超音波治療(HIFU)」という低侵襲治療を実施しており、患者さん個々への最適な治療選択肢を提供しています。

今後もガイドラインに基づいた標準診療を行うと同時に、大学病院として新しい医療を提供したいと考えています。ロボット支援手術におけるナビゲーションシステム、新規医療技術による低侵襲治療、人工知能を用いた診断支援などに、国内外の研究者との共同研究として取り組んでおり、こうした医療技術が

必要と思われる患者さんに積極的に実施を検討していきます。さらに近年、泌尿器悪性腫瘍における遺伝情報の重要性が明らかになっており、当院の遺伝子診療科と連携しながら遺伝子診療の推進をめざしています。

これまでと同様、地域の先生方とのコミュニケーションを深め、役割分担をしながら積極的に医療連携を進めます。また、泌尿器科領域を専門としない先生方と、泌尿器科疾患で専門医への紹介が必要な疾患やタイミングを解説する勉強会も始めたいと考えており、地域貢献の取り組みを充実してまいります。

ハイボリュームな診療体制を強みに QOL 向上と全人的な医療の充実を実現

産婦人科学 教授 野村 弘行



産婦人科には周産期、不妊・生殖、婦人科腫瘍、女性医学という4つの分野があり、各々が有機的に結びついています。当科には各分野のエキスパートが在籍し、最新・最適な治療体制を構築しています。

その中で婦人科がんの領域においては、エビデンスに基づく診療のほか、急速に導入が進む遺伝学的検査を積極的に活用し、集学的・個別化医療を推進していきます。新規治療の開発や適応取得を目的とした臨床試験や治験についても注力してまいります。

婦人科がんの罹患年齢は比較的若年であり、治療対象が生殖臓器であることから、患者さんのQOL向上がきわめて重要な課題です。低侵襲手術や妊孕

性温存治療の適用、卵巣摘出に伴う医原性閉経への対応や、根治が難しい患者さんへの緩和ケア導入支援など、関連領域との連携を強め、社会的サポートを含めた全人的な医療を充実していく所存です。

地域がん診療連携拠点病院である当院は、“顔の見える”病診連携のもと、婦人科がんの患者さんを集約してハイボリュームな診療を実施できる体制があるのが強みです。今後も地域の先生方との役割分担を行いつつ、情報交換をより活発にしながら、シームレスな医療体制の構築を図ってまいります。

進歩する“めまい”の臨床検査に加え 患者目線での新規治療も積極的に提供

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 五島 史行



当科では頭頸部の悪性腫瘍を数多く診ており、専門性としては頭頸部腫瘍の領域とそれ以外の領域に分かれます。明らかな外科的領域・内科的領域が混在しているところが耳鼻咽喉科の特徴で、いずれも高品質の診療を提供できる点が当科の強みです。

その中で近年、めまいの診療は臨床検査の進歩によって大きく様変わりしており、これまでのように診断されていなかった患者さんの病態を明らかにすることが可能になりました。より多くの患者さんに高度な検査を提供することが当科のミッションであり、的確な診断がなされることで十分な治療につながります。患者さんの目線に立ちつつ、新たな先端治療も提供してい

きたいと考えます。これまで治らないとされていた、めまいや耳鳴りの多くが治療可能になっており、地域の患者さんに幅広く新規治療を提供していきたいと思っております。

地域の近隣医院、病院との連携は言うまでもなく大事で、紹介患者さんに関する返事を早く正確にお返しするなど、日頃からの積み重ねによって信頼関係の構築につなげます。検査・診断のみのご依頼でもかまいません。治療方針が確定した際には近隣の施設に速やかに逆紹介することも含め、これからも地域に根差した医療を大切にまいります。

新任教授紹介

● 東海大学医学部附属病院 ●

高度なゲノム医療にも対応する眼科医局へ 最先端と地域医療の両軸で成長を持続

眼科学 教授 鈴木 崇弘



当科が特に注力する分野は白内障・緑内障・網膜疾患に対する手術です。通常の手術に加え、難治性の白内障に対する様々な外科的アプローチ、血管新生緑内障、再発性の網膜剥離、未治療な増殖糖尿病網膜症など重症な網膜疾患に対しても、最大限の回復を目標に手術に取り組んでいます。

昨今、遺伝子治療やiPS細胞を用いた網膜再生医療などの研究が進み、治療方法が存在しなかった遺伝性網膜疾患に対する治療も実現しつつあります。幅広い眼科疾患に対応できる臨床体制を整えつつ、今後は高度なゲノム医療にも対応できる眼科医局へと成長していくことも目標のひとつです。

地域の眼科診療を支えていく上で、日頃からの緊密な病診連携は欠かせません。開業医の先生方とオンラインを含む研究会、勉強会などで顔を合わせる機会を生かし、情報の共有と連携を促進していきます。また、医師派遣や、マンパワーが厳しい際には患者さんを大学病院へ集約するなど地域医療に貢献できればと考えます。加えて、最近眼科でも注目されている遠隔医療の最新動向にも目を配り、医師と患者さんの負担軽減につながるよう努めます。引き続き、地域の健康増進に向けて歩みを共にできればうれしく思います。

地域連携と院内連携の充実化に努め 安全で最良な循環器救急医療を提供したい

救命救急医学(循環器診療) 教授 網野 真理

私は循環器内科から救命救急科へ出向し、循環器救急診療を担当してきました。具体的には、致死性不整脈、アナフィラキシー心筋梗塞、薬物加療服薬に伴うQT延長症候群、胸部外傷に伴う心筋損傷、長期臥床に合併した静脈血栓・塞栓症などが挙げられます。

地域医療において高度救命救急センターが担う最たる役割は、緊急あるいは重篤な患者さんの迅速な受け入れです。救命士から短時間で正確な情報を取得できるよう、定期的に救命セミナーを実施し学びの場を共有しています。

院外のみならず、院内においても各診療科と円滑

な診療連携ができるようなシステムが構築されてきました。たとえば体外補助循環装置や補助心臓ポンプなどの挿入にあたっては、循環器内科と救命救急科が協力しますが、加えて臨床工学技士や臨床検査技師による十分な専門的支援もあります。

救急車対応のみならず、一般外来における病態急変(失神、造影剤使用時のアナフィラキシーなど)に対しても、安全で最良な医療を提供する環境を整えています。地域の先生方から安心して患者さんのご紹介を頂戴できますよう、東海大学医学部附属病院における全診療科の枠を超えた協力体制を強みに最善を尽くしていきます。

プロフィール

血液・腫瘍内科学 教授 鬼塚 真仁 (おにつか・まこと)

日本内科学会専門医・指導医、日本血液学会専門医・指導医ほか。入局1年目に当時国内で最も早くから同種造血幹細胞移植に取り組んでいた名古屋第一赤十字病院に国内留学。東海大学医学部附属病院に戻ったあと、当院の同種造血幹細胞移植の治療成績は大幅に向上。加えて移植後合併症を克服するための臨床・基礎研究でも実績を重ねている。

腎内分泌代謝内科学 教授 駒場 大峰 (こまば・ひろたか)

日本内科学会認定医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本腎臓学会専門医・指導医ほか。腎臓病に関する診療の傍ら、骨・ミネラル代謝異常(CKD-MBD)を中心に臨床研究・基礎研究に従事。近年ではCKD-MBDが悪性腫瘍で見られるカヘキシアのような病態を惹起することを見だし、予後改善につながる知見として注目を集めている。

消化器外科学 教授 岡田 健一 (おかだ・けんいち)

日本外科学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医ほか。肝胆膵の疾患、特に膵がんに対して薬物・放射線を用いた集学的治療によって、外科治療のメリットを最大限に引き出す取り組みを実践。周術期の全身管理、術後後遺症の軽減などを目的とした運動療法や栄養療法も重視している。

脳神経外科学 教授 高橋 雅道 (たかはし・まさみち)

日本脳神経外科専門医、がん治療認定医、日本神経内視鏡学会技術認定医ほか。神経膠腫(グリオーマ)を中心とした原発性悪性脳腫瘍、悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍のほか、良性腫瘍の手術経験も豊富。現在、未承認薬を用いた医師主導治験の治験調整医師代表を務めるほか、MRI画像を用いた深層学習やAIによる新規解析方法の開発にも注力している。

整形外科 教授 酒井 大輔 (さかい・だいすけ)

日本整形外科学会専門医ほか。専門は脊椎脊髄病学。小児の脊柱側彎症に対して高度な技術での外科的治療を行うとともに、椎間板の損傷に対する再生医療を研究。椎間板が大きく損傷した重度の症例に対して、再生した椎間板を用いる臨床試験を行うなど、椎間板と腰椎の若さを保つ治療へのステップとして期待を集めている。

腎泌尿器科学 教授 小路 直 (しょうじ・すなお)

日本泌尿器科学会専門医・指導医ほか。主に前立腺がんに対する高精度診断技術と低侵襲治療の開発に取り組み、「MRIに基づく前立腺針生検法」がわが国で初めて、厚生労働省から先進医療として承認された。また前立腺がんの治療として、ロボット支援手術のほか集束超音波治療(HIFU)を用いた前立腺がん標的局所療法(Focal Therapy)にも取り組んでいる。

産婦人科学 教授 野村 弘行 (のむら・ひろゆき)

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍指導医、日本産科婦人科学会産婦人科指導医ほか。悪性腫瘍を主とした婦人科腫瘍学を専門領域に、ロボット支援手術を含む低侵襲手術、がんの妊孕性温存治療、がん薬物療法、がんゲノム・遺伝性腫瘍診療、ホルモン補充療法などの治療、および難治性卵巣がんに対する新規治療開発などの研究実績を幅広く蓄積している。

耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授 五島 史行 (ごとう・ふみゆき)

日本耳鼻咽喉科学会専門医・日本めまい平衡医学会専門医ほか。平衡障害、特にめまいについての臨床、および研究に注力。慢性めまい、持続性知覚性姿勢誘発めまい、前庭性片頭痛などの疾患について多くの実績があり、加えて、耳鼻咽喉科心身症に対する治療についての研究にも注力している。

眼科学 教授 鈴木 崇弘 (すずき・たかひろ)

日本眼科学会専門医ほか。2000年に東海大学医学部眼科へ入局後、専門とする白内障と網膜硝子体疾患の手術については、最近10年間で白内障2500件以上、硝子体手術1400件以上の執刀実績を有している。基礎研究では理化学研究所への留学経験を生かし、現在も糖尿病網膜症の新規治療法の開発研究を行っている。

救命救急医学(循環器診療) 教授 網野 真理 (あみの・まり)

日本内科学会認定医・指導医、日本循環器学会専門医、日本不整脈学会専門医ほか。体外からの放射線を用いた不整脈治療研究を20年継続し、2023年には世界初の重粒子線照射を量子医科学研究所と共同で実施するなど、心臓突然死の新たな予防戦略の提唱をめざしている。加えてアスリートのパフォーマンス向上をめざしたプロジェクトにも注力している。

病院長就任インタビュー ● 東海大学医学部附属八王子病院 ●

南多摩二次医療圏を支える拠点病院として 八王子ならではの地域連携で良質の医療を提供

大学病院としての高度先進医療のほか あらゆる局面に対応できる拠点病院に

東海大学医学部附属八王子病院は2018年に「地域医療支援病院」、2023年には「紹介受診重点医療機関」に認定され、南多摩二次医療圏の中核病院として医療機能の分化と連携の円滑化を進めつつ、特に2つの高度先進医療に注力してきました。

そのひとつが「がん診療連携拠点病院」としての役割です。内視鏡・腹腔鏡手術をはじめとした低侵襲医療、強度変調放射線治療 (IMRT) 装置を備えた放射線治療など最新の医療を提供するとともに、「がん相談支援センター」や「がんサロン」を開催し、患者同士のピア・サポートも積極的に進めています。

もうひとつが、脳卒中・循環器病に対する急性期治療です。経皮的冠動脈インターベンション (PCI) はもとより、心房細動に対するアブレーション治療、脳血管疾患ではPSC (一次脳卒中センター) コア施設に認定され、t-PA 静注療法や血管内治療にも力を入れています。2022年には患者さんに対する医療サービスとして「脳卒中相談窓口」を開設し、突然の入院により生じた様々な課題を支援するため、脳卒中療養相談士(医療ソーシャルワーカー、医師、看護師等)が多職種と連携して相談に応じるなど、退院後の生活に対する情報提供や相談支援を行っています。

こうした高度先進医療のほかに、当院は南多摩二次医療圏唯一の難病協力病院として、難病診療も行っています。さらに、災害時には東京都災害拠点病院

として地域の医療機関を支援する役割を担うなど、あらゆる局面に対応できる拠点病院として地域に貢献していく所存です。

コロナ禍で評価された「八王子方式」で 急増する高齢者医療に備える

八王子エリアは高齢者人口の増加率が全国平均の約1.5倍という高さで、今後いっそう高齢化が進んでいく地域といえます。

高齢者医療において重要な認知症については、従来は神経内科や精神神経科で診てきたものが、今や全ての診療科の患者さんが認知症を併せ持つ時代になりました。またパーキンソン病も高齢化に伴って有病率が増え、90歳になると10万人に1000人まで膨れ上がる予測もされています。「パーキンソン病パンデミック」という言葉が生まれるほど、神経変性疾患は高齢化の進展に伴って急速に増えていくことが予想されます。当院でも今後いっそう、地域の先生方との診療領域のすみ分けを図りながら、それぞれの役割に応じた高齢者医療を進めていくことが求められます。

たとえば、コロナ禍において実施した急性期病院と慢性期病院の連携は「八王子方式」と呼ばれ、全国的にも注目を集めました。オフラインとオンライン双方で急性期と慢性期の医師がコミュニケーションをとり、お互いのメリットを出し合う中で慢性期病院の先生方にも積極的に新型コロナの患者さんを診て

もらうことができたのです。

この「八王子方式」は、コロナ禍前に当院が続けていた地域の先生方との「医療連携の会」をはじめ、緊密な地域連携が成されていたからこそ実現できたものだと考えています。今後も円滑な地域医療連携をベースに、本格的な超高齢社会の到来に備えていきます。

医療界が直面する2つのハードル 良質の医療提供に向けて体制を拡充

2024年度は、医療界における2つの大きなハードルに直面します。ひとつは、4月に始まった「働き方改革」です。地域に貢献できるサステナブルな病院を展開していくためには働き方改革の推進は欠かせず、当院でもワークシェアリングの実践など、様々な取り組みを行うことで過重労働の解消に取り組んでいます。

もうひとつは、6月から始まる医療と介護の診療報酬の改定です。病院としてのDPC 機能評価係数



東海大学医学部附属八王子病院
病院長
野川 茂

「2024年4月、病院長に就任いたしました。これまで当院に10年間在籍し、副院長を6年間経験させていただきました。31診療科、500床を有する地域の中核病院という位置付けで、幅広い医療を提供してまいります」

専門領域：脳血管障害、パーキンソン病、頭痛

資格：日本内科学会指導医・総合内科専門医、日本神経学会代議員・指導医・神経内科専門医、日本脳卒中学会幹事・指導医・専門医、日本脳循環代謝学会理事、日本ニューロリハビリテーション学会理事、日本成人病(生活習慣病)学会理事

向上への取り組みや、院内のクオリティコントロールに注力するTQM(トータル・クオリティ・マネジメント)の委員会の創設などを通じて、病院機能の向上に努めます。

今回の改定では、医療DX(デジタル・トランスフォーメーション)が診療報酬改定の対象となり、マイナンバーカードの導入や電子処方箋・電子カルテの活用なども重要です。こうした新たなニーズに対応する専門のセクションを立ち上げ、地域により良い医療を提供するための体制を拡充していきます。

医療安全への積極的な取り組みを継続 「Safety-II」の概念に基づいた実践が重要

近年、特に注力すべきものとして、サイバーテロに対する対応、医療安全や災害への対策が挙げられます。なかでも医療安全は当院が積極的に取り組んできた事柄のひとつです。

高信頼性組織をめざすためには、「予想される事象(work as imagined)をいかに予防するか」(Safety-I)というだけでなく、「起きてしまった事象(work as done)にいかに対応するか」(Safety-II)というレジリエンスが重要です。そのためには、「CUS」(Concerned 気になる、Uncomfortable 不安、Safety issue 安全の問題)を遠慮なく発言できる医療従事者間の「心理的安全性」の担保と各個人の「積極的(プロアクティブ)な態度」が重要と考えています。これらを実践することで、安全性の高い、患者さん中心の良質な医療の実現に注力していきます。



◆東海大学医学部附属八王子病院の年齢階級別退院患者数(令和4年度)

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	918	286	352	441	849	1,365	1,958	3,689	2,519	456

当院は東京都よりがん診療連携拠点病院や二次救急医療機関の指定を受けていることから、日本人が罹患しやすいがん、脳血管疾患、循環器疾患を中心に、60～80歳代の患者さんが多い構成となっています。また、小児救急外来(奇数日)を行っているため小児患者数も多くなっています。(2023年9月30日時点)

新任教授紹介

● 東海大学医学部附属八王子病院 ●

国産手術支援ロボット「hinotori™」を導入 いっそう正確な手術の提供を推進

消化器外科学 教授 金子 順一



当科の肝胆膵領域は年間の肝切除約25例、膵切除約50例を行うハイボリュームセンターのひとつです。最も大きな強みは腹腔鏡手術を中心とした最小侵襲手術(MIS)で、入院期間が短縮され患者さんの早期社会復帰が可能です。さらに大学病院としての強みである他科や多職種と連携した複数のチームが術前から深くかかわる体制を構築しており、合併症をお持ちの患者さんに対しても手術関連死亡率を低減した安全な手術を実現しています。

2024年4月、当院へ国産手術支援ロボット「hinotori™」が導入されました。このロボットの最大の利点は、鉗子の先端が「震えない(ぶれない)」こと

です。一般的に外科医は熟練医でも、一定の緊張や加齢による震えに鉗子の先端が影響されることがあります。人の腕と同サイズのコンパクトなアームが特徴の国産ロボットの導入により、震えない正確な手術の提供が可能です。

今後も地域の医療機関の皆様とのチームの一員として、医療連携を重視する姿勢は変わりません。緊密な情報共有と迅速な対応に重きを置きつつ、ご要望に対して全力で取り組んでまいります。退院時の速やかなご報告と逆紹介を推し進め、いっそう長期的な信頼関係の構築に努めたいと思います。

2030年の「心不全パンデミック」に備え リスク低減への取り組みに向けて尽力

循環器内科学 教授 森田 典成



2030年には「心不全パンデミック」が到来するとされる現在、当科は虚血性心疾患における冠動脈カテーテル治療、閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療、不整脈への薬物・非薬物治療、心臓リハビリテーション治療を主な診療の柱に据えており、その責務はさらに増していくと考えられます。

当科では、虚血性心疾患に対しては急性期治療のみならず、予後改善を見据えた心臓リハビリテーションが一貫して提供され、外来まで引き継がれていることが特徴です。これにより新規の冠動脈疾患の発症予防、心不全による入院の回避につながっています。

また、当科の行う不整脈治療、特に心房細動に対

するアブレーション治療は地域の医療機関にも浸透し、多くの患者さんをご紹介いただいています。その強みは、より低侵襲で高い抑制率を求めめるために、治療方法を1~2年ごとにアップデートさせながら患者さんに提供できることにあります。今後もいっそう高いレベルでのアブレーション治療を追究していく所存です。

地域の先生方向けに開催していた循環器疾患の勉強会「Heart-Netの会」も再開に向けて準備していく予定です。これからも緊密な地域連携を図りつつ、心不全リスクへの対策を進めてまいります。

2024年4月より新たに当院に就任いたしました教授(附属八王子病院)から
新任のご挨拶をさせていただきます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

円滑なコミュニケーションを大事に 患者さん個々に寄り添った医療を重視

消化器外科学 教授 鍋島 一仁



当科の上部消化管領域では、食道・胃・十二指腸疾患を診療対象としています。胃がん、食道がんには、治療前に精密検査を行い、がんの進行度と治療ガイドラインに従って、患者さん個々の病状や全身状態、個人の価値観、社会的背景に合わせ外科治療・抗がん剤治療から緩和治療まで集学的治療を行います。また、稀少疾患であるGISTの外科治療や薬物治療、神経内分泌腫瘍など当科で扱う疾患は様々であり、標準的な治療から先進的な治療・臨床試験まで、可能な治療選択肢を十分に検討して方針を決定しています。

胃がんの外科治療は、早期胃がんに限らず進行胃がんも今や内視鏡外科手術(腹腔鏡手術・ロボット支援

手術)が主流となっています。当院でも手術支援ロボット「hinotori™」を導入し、ロボット支援腹腔鏡下胃切除術を積極的に行っていく予定です。ロボット支援手術は、高精細な3D画像と多関節機能により精密な手術操作が可能で、手術合併症を減少させ、術後在院日数の短縮が報告されるなど、患者さんにとって負担の少ない手術となります。

患者さんの希望に添った治療を提供するために、八王子市・南多摩医療圏をはじめ東京都、神奈川県、山梨県、埼玉県ほか多くの先生方と円滑なコミュニケーションと連携を行ってまいります。

▶プロフィール

消化器外科学 教授 金子 順一 (かねご・じゅんいち)

日本肝胆膵外科学会高度技能専門医、日本門脈圧亢進症学会技術認定医ほか。20年間、東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科で修練を積み、肝胆膵外科手術から肝移植まで幅広く経験。直近では年間150例の症例の執刀、また後進

の指導にあたる。研究領域は人工血管やAIの研究を行い、同AIの研究は2023年に日本肝胆膵外科学会賞を受賞。AIが医療現場を積極的にサポートすることによる医療サービスの向上、2024年に始まった医師の働き方改革と人手不足解消への挑戦を続けている。

循環器内科学 教授 森田 典成 (もりた・のりしげ)

日本循環器学会認定循環器専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医、日本内科学会総合内科専門医ほか。専門である不整脈の診療および研究に従事し、術者としてカテーテルアブレーション治療の実績は数千名にのぼる。不整脈に

対する薬物治療の臨床、基礎的研究に注力し、薬物治療研究にて発表した論文の一部は、日本循環器学会ガイドラインの参考文献にも収載されている。

消化器外科学 教授 鍋島 一仁 (なべしま・かずひと)

日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医(胃)、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医ほか。主に胃がん、GISTの治療を専門に、胃がんの化学

療法では抗がん剤、免疫チェックポイント阻害剤を使用し、切除不能再発胃がんの治療にも従事。GISTの薬物療法では、分子標的治療薬等を使用した治療も行っている。ロボット支援手術認定プロクターとして後進の指導も担当。

Think Ahead, Act for Humanity



東海大学 医療連携通信 No.15 (2024年6月発行)

発行責任者／東海大学医学部附属病院 病院長 渡辺雅彦

本誌の内容は2024年6月現在の情報に基づいています。詳細は、各病院にお問い合わせください。

東海大学医学部附属八王子病院
〒192-0032 東京都八王子市石川町 1838
TEL: 042-639-1111 (代表)
<https://www.hachioji-hosp.tokai.ac.jp/>
お問い合わせ先 ▶ 事務部事務課
TEL: 042-639-1111 (代表)
予約について ▶ 医療連携室
TEL: 042-639-1114 (直通)
FAX: 042-639-1115 (直通)



▲ 病院のご案内



▲ 外来診療担当表

東海大学医学部附属東京病院
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-2-5
TEL: 03-3370-2321 (代表)
<https://www.tokyo-hosp.tokai.ac.jp/>
お問い合わせ先 ▶ 医療連携室
TEL: 03-5333-3066 (直通)
FAX: 03-3379-1287 (直通)



▲ 病院のご案内



▲ 外来診療担当表

東海大学医学部附属病院
〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 143
TEL: 0463-93-1121 (代表)
<https://www.fuzoku-hosp.tokai.ac.jp>
お問い合わせ先 ▶ 医療連携室
TEL: 0463-93-8495 (直通)
FAX: 0463-93-1125 (直通)
メール: renkei@tsc.u-tokai.ac.jp



▲ 病院のご案内



▲ 外来診療担当医一覧